

【臓器移植断念の報道を受けての声明】

脳死者から提供された臓器の移植手術を行う大学病院が臓器の受け入れを相次いで断念している問題で、手術実績上位の東京大、京都大、東北大の断念例が、2023年の1年間で計62件に上っていたことが、日本移植学会の緊急調査でわかった。理由としては「集中治療室（ICU）が満床だった」とする回答が3割で最多だった。京大では、患者1人が受け入れの断念後に亡くなっていたとの報道がありました。

今後、病床や人員の不足で、より切実な状態にある患者への移植が見送られることは、臓器を提供いただいたドナー、臓器提供を承諾するという重い決断をされたドナーファミリーの気持ちを無にするものであり、由々しき事態だといえます。

私共は永く臓器移植推進活動を微力ながらも行ってきました。しかしその無力感も感じています。

ドナーから患者へと生命をつなぐ移植医療の重要性が社会への浸透に対しても体系の採れた臓器移植推進活動が必要不可欠でもあります。

「毎日死んじゃうんか」と思って過ごす臓器移植を待つ患者にとっても希望の見えない大きな不利益となります。

ぜひ国として、臓器移植手術断念の現状を把握し詳細な分析を行い、臓器移植医療の課題を全方位から洗い出し、骨太の対応と共にその対策を早急を実施していただきたい。

加えて臓器移植に携わる人材の確保、全国の病院の臓器移植体制の確立、臓器移植に対して収益性確保など中期・長期計画を建て、年毎の成果振り返りを重ねながら確実な実施を願うものです。

令和6年8月5日

特定非営利活動法人 日本移植者協議会

理事長 中井 真一